

ようぶせきちゅうかんきょうさくしょう
腰部 脊柱管 狭窄症 市民公開イベントを開催

【概要】

中年以降に多い腰部脊柱管狭窄症は、腰や臀部（でんぶ）の痛み、さらに下肢のおもに後外側に出現する痛みやしびれによって、日常生活に支障が出ます。今回の市民公開イベントでは、その原因や手術法、最新の治療法、研究について解説します。

【趣旨】

腰の手術を検討されている皆さまへ「腰部脊柱管狭窄症」の原因や手術方法に関する理解を深めていただくことを目的としています。

【日 程】 2023年5月27日（土）14時00分～15時30分（受付：13時00分から）

【場 所】 北海道大学医学部臨床講義棟2階 臨床大講義堂（札幌市北区北15条西7丁目）
札幌駅北口より徒歩約20分

【主 催】 北海道大学大学院医学研究院脊椎・脊髄先端医学分野

【対 象】 一般市民

【募集人数】 222人（先着順）

【参加費】 無料

【言語】 日本語

【プログラム】 14時00分～14時45分 北海道大学大学院医学研究院 大西貴士特任助教による講演
「脊柱管狭窄症はなぜ起こる？原因について解説します！」
14時45分～15時30分 北海道大学大学院医学研究院 須藤英毅特任教授による講演
「手術方法や最新の治療について解説します！」

【申込方法】 事前のお申し込みは不要です。当日直接会場までお越しください。

お問い合わせ先

北海道大学大学院医学研究院整形外科学教室

T E L 011-706-5934 F A X 011-706-6054

メール seikeigeka-ikyoku@pop.med.hokudai.ac.jp

U R L <https://www.hokudaiseikei.jp>

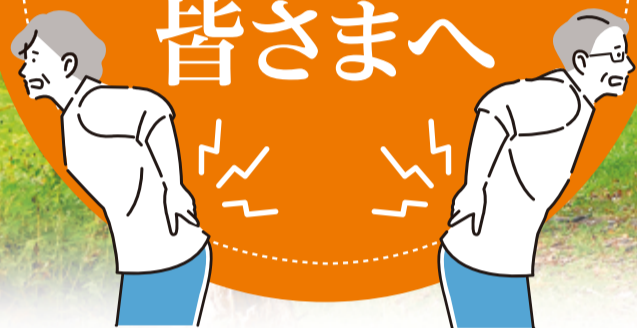
配信元

北海道大学社会共創部広報課（〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目）

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール jp-press@general.hokudai.ac.jp



腰と下肢の
痛みにお悩みの
皆さまへ



腰部脊柱管狭窄症

ようぶ せきちゅうかん きょうさくしょう

市民公開イベントのご案内

参加無料

定員(先着順)

222名様

事前のお申し込みは不要です。
当日直接会場までお越しください。

講演内容

中年以降に多い腰部脊柱管狭窄症は、腰や臀部(でんぶ)の痛み、さらに下肢のおもに後外側に出現する痛みやしびれによって日常生活に支障が出ます。なぜ起こるのか?その原因や手術法、最新の治療法、研究について解説します。

講演詳細は
こちらから▶



日時

2023年5月27日(土)

14:00~15:30(開場▶13:00)

場所

北海道大学医学部臨床講義棟2階
臨床大講義堂

主催:北海道大学大学院医学研究院脊椎・脊髄先端医学分野

協賛:国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 

講師ご紹介



特任教授
須藤 英毅

北海道大学大学院医学研究院特任教授。
日本整形外科学会会員(専門医、代議員)、
日本脊椎脊髄病学会会員
(専門医、外科指導医、評議員)、
日本再生医療学会会員(代議員)。
文部科学大臣表彰科学技術賞など多数受賞。



特任助教
大西 貴士

北海道大学大学院医学研究院特任助教。
日本整形外科学会会員(専門医)、
日本脊椎脊髄病学会会員(専門医、外科指導医)。
日本脊椎脊髄病学会奨励賞受賞(2020)。

進行 百町 貴彦 我汝会えにわ病院 院長
織田 格 北海道整形外科記念病院 副院長

お問い合わせ

北海道大学大学院医学研究院整形外科学教室
〒060-8638 北海道札幌市北区北15条西7丁目

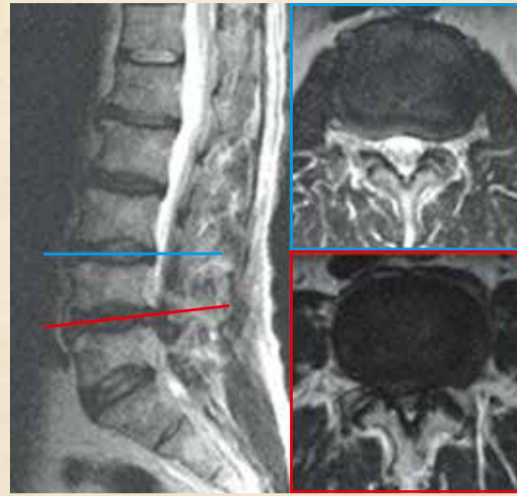
TEL:011-706-5934 FAX:011-706-6054

e-mail: seikeigeka-ikyoku@pop.med.hokudai.ac.jp URL: https://www.hokudaiseikei.jp

腰の手術を 検討されている 皆さまへ。

「腰部脊柱管狭窄症」その原因や手術方法は。

中年以降に多くみられる腰部脊柱管狭窄症は、強い腰痛や下肢痛が生じます。加齢によって脊柱の構成要素である椎間板(ついかんばん)に含まれる水分が低下し弾力がなくなると、椎間関節(ついかんかんせつ)や黄色靭帯(おうしょくじんたい)といった骨や靭帯に負担がかかるため、これらが厚く肥厚(ひこう)し脊柱管が狭くなります。特に椎間板ヘルニアを併発した症例(図)に対する手術治療では、脊髄(せきずい)神経を圧迫している椎間板も摘出します。一方、椎間



腰部脊柱管狭窄症
(椎間板ヘルニアを併発)のMRI所見。
正常脊柱管(右上図)に比べて
脊柱管が狭く(右下図)、
脊髄神経を圧迫している。

板は自然再生しないといわれており、手術による摘出によって変性がさらに進み、再発や変形による再手術のリスクが指摘されています。北海道大学では術後の痛みや将来の椎間板変性を予防する再生医療研究を実施してきました。その成果をもとに、現在国からの支援を受けて、2022年4月から3年間の予定で、北海道大学病院、我汝会えにわ病院、北海道整形外科記念病院の3施設で新しい治療法の開発を進めています。

脊柱管狭窄症はなぜ起こる？ 原因について解説します！

特任助教 大西 貴士

腰椎変性疾患(ようついへんせいしっかん)の代表的な病気である、腰部脊柱管狭窄症になると、腰や下肢に痛みやしびれが生じます。なぜ起こるのか?椎間板を中心とした、せぼね(脊柱)の成り立ちや診察方法を含めて詳しく解説します。



椎間板

手術方法や最新の治療法、研究について 解説します！

特任教授 須藤 英毅

腰部脊柱管狭窄症では、安静やお薬でも症状が良くならない場合に手術治療を検討します。せぼねの手術としては最もスタンダードな手術方法です。手術時間は1~2時間、入院期間は1~2週間ですが、手術による新たな課題も指摘されています。本講演では、実際の手術方法から現在行っている最新の治療法、研究について解説します。



北海道大学医学部臨床講義棟2階 臨床大講義堂 札幌市北区北15条西7丁目

●アクセス

●JR
札幌駅下車
徒歩約20分

●バス
札幌駅北口バスのりばから乗車
中央バス屯田線01・03・04
北大病院前下車:徒歩約3分

●地下鉄
南北線北12条駅下車:徒歩約10分
南北線北18条駅下車:徒歩約10分
東豊線北13条東駅下車:徒歩約15分

須藤先生の
最新の研究についての
詳細はこちらから▶

